前田委員　提出意見

１．学校教育の充実

■学力向上はもちろん重要ですが、「人間力（生きる力）」の向上の視点も重要と考えます。
　人生100年時代を”生き抜く”ことは、長寿社会を生きる私たちに与えられた新たな課題であり、チャレンジです。
　どのように生きていけばいいか、理想の生き方（老い方）とは、年をとるということはどういうことなのか、そうした生きるための
　基本的知識は若い段階から持っておくべきと思います。

　具体的には以下のような教育を新設、充実させることが有効と考えます。
　①ジェロントロジー教育（エイジング教育）
　　※日本では東京大学や桜美林など僅かな大学でしか扱われていません。「高齢社会検定」という検定試験の形でのジェロントロジー教育は行われています（私が担当しています）
　　※アメリカでは小学校からエイジング教育が行われています
　②お金の教育（金融教育）
　　どの段階から導入すべきかは要検討ですが、人生100年時代を生き抜く上で、お金に関する教育も大切です。
　　日本FP協会など専門機関はその普及を努めていますが、こうした教育もあって然るべきと考えます。
　　※その他、リベラルアーツや宗教、哲学、死生学といった、人生観を養う教育も大切と考えます。

■人生100年時代、マルチステージ（キャリア）人生をより良く生きていけることを考えると、次の視点を養うことが必要と思います。
　（抽象的な意見で申し訳ございません）
　①専門性（一芸）を養うこと、磨くこと
　　日本はメンバーシップ型の雇用市場（慣行）であり、勤める企業・組織に属することが社会を生きていく上でのGOALとなってしまっているのが現状かと思います。
　　そのことを否定はしないまでも、自分らしくより良く生きていくには、「〇〇会社の〇〇」ではなく、「〇〇をしている、〇〇ができる〇〇」です、と言える人になっていくことが望ましいと考えます。日本も徐々にJOB型労働市場へシフトが進むと思いますので、よりこうした視点は重要と思います。
　　※多くの人が企業に飼い殺し状態になっていますが、そうした状況を回避するためにも重要です（表現が適切でないかもしれませんがご容赦ください）
　②複数の活動場所（名刺）を有すること
　　兼業・副業推進の流れはありますが、人生100年時代、自分の可能性を拡げるためにも、若いときから複数の名刺を持ちながら活動していくことを薦めたいです。
　　それは自衛（自助）にもつながることです。若いころから生計のための仕事と地域活動を両立するなど、自分の居場所を多く持つことは大切です。

■資料の中では、あまり「スポーツや音楽」など、学力以外の能力向上について触れられていないかと思いますが、こうした要素も無視できないと思います。
　重要なことは学力だけに限らず「自分の強み」を創っていくことだと思います。

■その他で一つの課題提起をさせていただくと、「ネット情報社会」の弊害を是正する視点も必要ではないかと考えます。
　得たい情報を得るだけの人が増えていると思います。新聞を読んでいる人はどんどん減っています。そうなると、世の中、行政や企業の動き、世界情勢のことなど
　無知な人は増えていきます。世の中の動きや実態を”正しく”認識することはいつの時代も社会人としての常識ではないでしょうか。

２．生涯を通じた多様な学びの充実

■リカレント教育は非常に重要でこれから充実させるべきです。私も「一般社団法人　定年後研究所」の運営だったり（理事として）、
　神奈川県の「生涯現役マルチキャリア推進事業」（私が座長）でも実感していますが、重要なポイントは出口とのマッチングです。
　知識の提供（教育すること）は簡単です。しかし、その知識を具体的にどこでどのように活かせるのか、その導線を築くことが難しいところです。
　そのためには地域の中でそうした学んだ人を受け入れる企業等の協力が不可欠です。出口を明確にできてこそリカレント教育の有用性が発揮されます。
　ですので、そうした体制の整備に力を注ぐ必要があります。
　あと、この教育の中では「マルチライフ・キャリアとしてどのような可能性があるのか」、その「選択肢」を明示することも重要です。
　何歳からもこんな生活、こんな自分の自己実現ができるという「選択肢」を知ってもらうことから、マルチライフ・キャリアはスタートします。

■一部の自治体では「お父さんお帰りなさいパーティー」「アラカンフェスタ（アラウンド還暦）」といったシニアの成人式のようイベントが行われています。
　そうしたイベントを起点としながらシニア中心の「学校」を自治体が運営することも未来社会に向けて非常に有効なことだと考えています。リカレント教育も
　この中で実践していけばよいと考えます。地元に知り合いがおらず孤立してしまうリタイア会社員は少なくありません（山形ではどうか？）。
　そうしたリタイアシニアが地域の人と知り合い交流する機会としてこの学校は有効になります。孤立防止にもなりますし、セカンドキャリア移行のきっかけにもなります。
　まだこうしたシニア学校運営を実施している地域はありませんが、ぜひ山形県がその先陣を切っていただけないかと思っています。
　（第二の義務教育というコンセプトです）

■これからの未来社会においては、若いときから「働く（活躍）」「学ぶ」「遊ぶ」「休む」「（介護する）」のワークライフバランス（ケア）を実現できる生活が理想と考えます。
　そうした「時間割」を創る支援を行っていくことが、県民の幸せにつながることだと考えます。